高校生向け特別版

今につながる金融・経済の基礎

「日経STOCKリーグ」に挑む

中学生、高校生、大学生を対象とした「日経STOCKリーグ」は、投資テーマを決めて投資先の構成（株式ポートフォリオ）を考え、一連の過程や学んだことをレポートにまとめる金融・経済学習コンテストです。STOCKリーグでの学びは社会に出てからどのように役立つのでしょうか。高校時代に参加し、入賞した2人に話を聞くと、STOCKリーグでの経験を糧に、それぞれの道を切り開いていました。

現場に足を運び 実際の困難知る

TempestAI 代表取締役 最高経営責任者（CEO） **池田 蒼氏**

いけだ・あお　第23回日経STOCKリーグ部門優秀賞・高校部門（神奈川県立相模原中等教育学校5年時）。東京大学経済学部（在学中）。「金融の意思決定をAIで再構築する」ことを目指して2025年1月、TempestAIを起業（現職）。

社会を大きく変えるような存在になることを目指して、2025年1月にTempestAIを起業しました。世界の金融・経済の意思決定をAI（人工知能）で変革したいという思いで、金融機関などとAIソリューションの開発に取り組んでいます。

従業員数は25人で、そのほとんどが東京大学に在学中の学生です。私自身、東大の2年生で、志を同じくする仲間を学内で募って起業しました。日経STOCKリーグ参加時のチームメンバーも力を貸してくれており、あのとき一緒に挑戦した絆が今に続いています。

日経STOCKリーグは学校の授業の一環でしたが、説明会で話を聞いてがぜん興味がわきました。本気で取り組む気持ちがあるメンバーだけでチームを結成し、「未病」（病気ではないが健康とはいえない）をテーマに、健康に資する企業への投資を通じて未病改善の基盤づくりに挑む内容としました。

仮説を立て、それを検証するために研究者や企業トップへのインタビュー、展示会訪問などのフィールドワークを重ね、学びを深めていきました。初めはアポイントメントを取るのも勇気がいりましたが、思いのほかオープンに受け入れてもらえることに驚きました。

現場の話を聞くと、自分たちの仮説と現場で直面している課題に大きなズレがあることを痛感しました。そうしたくてもできないという複雑な事情があることを知り、現実のビジネスの難しさを垣間見ることができました。実際に動いてみないと気付けないことは多くあります。数学や歴史など普段の勉強が基礎になることもよく分かりました。

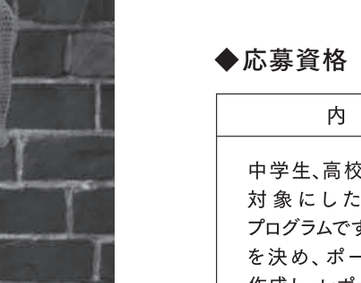
未来へつながる 大切な接続期間

日経STOCKリーグに本気で挑戦して得られたのは、自分の人生をかけて取り組みたい研究テーマとの出合いでした。

レポートを仕上げていく過程で、ESG（環境・社会・企業統治）や健康経営など、企業の底力を支えている数値で表しにくい定性情報をどう評価するかという点に課題を感じました。大規模言語モデル（LLM）を活用すれば、定性情報を定性情報のまま分析できるのではないか。ESGが企業価値の向上にどのように寄与するか解析する「柳モデル」などにも興味を持ち、東京大学で学ぶことに決めました。

教科書での勉強は大事ですが、社会の実情を知ることも大切です。日経STOCKリーグは社会につながる窓のようなものだと感じました。現場を見て、様々な刺激を受けながら自分の頭で考える。それをきっかけに自分自身の本当の興味・関心に気付き、深めることにつながりました。

大学生・社会人という未来へつながる接続期間である高校時代だからこそ、日経STOCKリーグでの学びや金融・経済との出合いはとても有意義なものでした。STOCKリーグへの参加を共通言語に多くの人と出会い、交流も広がります。私の場合、それが東大への進学や起業という現在の進路につながりました。皆さんもぜひ挑戦してみてください。



学校での部門優秀賞・高校部門の表彰

世界を体感できた ニューヨーク研修

杉田ひな子氏

すぎた・ひなこ　第16回日経STOCKリーグ最優秀賞（愛媛県立松山東高等学校1年時）。人材採用が事業成長に与えるインパクトに関心を持ち、人材会社に就職（現職）。企業と働く人をつなぐ仕事に従事している。

高校生のとき、私は国際交流などに取り組む部活「SGH（スーパー・グローバル・ハイスクール）部」に所属していました。部の副顧問をしていた先生が、活動にどうかと紹介してくれたのが日経STOCKリーグです。私は最優秀賞の副賞だった「ニューヨーク研修旅行」に引かれ、クラスメートを誘って3人チームで挑みました。

最も難航したのは、投資テーマを決めることでした。本腰を入れて取り組むからには、3人ともが興味を持てるものにしたいと思い、話し合いを重ねました。

その中で出てきたのが、質感です。3人とも紙の本に触れる感覚が好きだったこと、メンバーの2人が服飾部で、布を選ぶ際は目で見るだけでなく手で触った感触を大切にしていることにヒントを得ました。そこから「『質感』を大切にする企業」という投資テーマが決まり、多様な質感を未来へ伝え、より豊かな社会をつくることに資するポートフォリオを考えました。

内容については私たち生徒が考え、先生は相談役として見守ってくれました。悩んだとき、行き詰まったときに的確なアドバイスをいただき、とても助けられました。

最優秀賞に選ばれたことを聞いたのは学校の試験期間中でした。まさか受賞するとは思っておらず、驚きのあまり実感がわきませんでした。どんなところを評価したかという審査委員のコメントを読んだとき、じわじわと喜びが込み上げてきました。3人でやり切ってよかったと心から思いました。

念願だったニューヨーク研修旅行はとても印象に残っています。特に国際連合を訪問できたのはうれしかったです。昔から国際公務員という仕事に興味や憧れがあったので、世界を体感できて感動しました。現地の企業や学校を訪問できたのも有意義でした。

最優秀賞で得た自信 一歩踏み出す勇気に

日経STOCKリーグで最優秀賞をいただいたことで、自分にもできることがあるのだという自信が生まれました。その経験が、現在でも難しそうだな、自分にできるかなと思うような場面でも、思い切って飛び込む勇気を持つことにつながっています。実際早稲田大学へ進学を決めたり、大学で海外へ研修に行ったりなど、キャリアの選択の後押しにつながっています。

日経STOCKリーグでの学びを通じて、金融・経済への抵抗感は少なくなりました。一見、難しそうに見えることでも、自分で調べると分かることが多いことに気付き、学校の勉強にもプラスになりました。

私は日経STOCKリーグのことをすべて理解してから挑戦したわけではありません。何となく興味がある、何よりニューヨークに行ってみたいという気持ちで始めました。それでも得られたものは大きいと実感しています。参加するだけでも意味のあるコンテストです。少しでも気になったら挑戦してみるといいでしょう。

自分のやりたいこと、興味を持ったことには、一歩踏み出してみる価値があると思います。自身の思い込みなどで高い壁をつくらず高校時代は、様々なことに気軽にチャレンジしてみてください。

NY研修旅行でノムラ・ホールディング・アメリカInc.を訪問

野村グループの思い

野村グループは、「次世代を担う若い世代の皆さんに、投資の本質を理解してもらいたい」との思いから日経STOCKリーグの特別協賛を2000年のスタート時から続け、今年で26年目を迎えました。年を重ねるごとにコンテストのレベルも高まっていると感じています。

このコンテストに参加した皆さん、そしてこれから参加する皆さんが、この経験をもとに、将来に向けて果敢なチャレンジをしてくれることを願っています。今年も申し込みがスタートしています。皆さんの参加をお待ちしています。

申込締切：2025年9月5日（金）
レポート提出締切：2026年1月7日（水）
結果発表：2026年2月下旬
表彰式：2026年3月14日（土）予定

詳しくは こちらから
https://manabow.com/sl/

広　告

中・高・大学生のための金融・経済学習コンテスト
第26回 日経STOCKリーグ

日経とNomuraがつくった金融・経済の学習プログラム。

株式投資を通じて、生きた経済に触れながら、世界の課題を自ら見つけ、チームで解決していく。これまでに16万人以上の若者が体験し、これからの時代にますます求められる、総合的な力を養う学習プログラムです。あなたも、学校やゼミ、部活、有志のみんなと参加してみませんか。

◆期間　① 参加申込：2025年5月26日（月）～9月5日（金）
② レポート提出の締め切り：2026年1月7日（水）

◆表彰内容　最優秀賞 —— 全参加チームより1チーム（ニューヨーク研修旅行へご招待予定）
部門優秀賞 — 中学、高校、大学部門より各1チーム、計3チーム ほか賞多数

◆応募資格

内　容	応募資格	参加申込方法
中学生、高校生、大学生を対象にした金融・経済プログラムです。投資テーマを決め、ポートフォリオを作成し、レポートにまとめて提出してください。	国内・海外在住の中学生、高校生、大学生（短期大学、専門学校・各種学校生含む）1チーム3～5名とし、同じ学校・同じ部門（中学・高校・大学・専門学校）単位で申し込んでください。 ※原則、ご指導いただく教諭（教員）と一緒にご参加ください。	公式サイト「man@bow」https://manabow.com/よりお申し込みください。 まなぼう

主催：日本経済新聞社　特別協賛：野村ホールディングス
「日経STOCKリーグ」事務局　TEL：03-3545-9823　MAIL：stockleague@info.email.ne.jp

NOMURA | 100YEARS